

平成23年5月の解説（府県天気予報）

【5月の天候状況】

上旬は、前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなりました。中旬は、移動性高気圧に覆われ晴れの日が多くなりましたが、下旬には、太平洋高気圧の強まりにより、日本の南に前線が停滞して湿った空気の影響を受けることが多くなり、九州南部（23 日ごろ）、四国地方、中国地方、近畿地方（26 日ごろ）、東海地方、関東甲信地方（27 日ごろ）では、平年よりかなり早く梅雨入りしました（いずれも速報値）。また、月末の 27 日から 30 日にかけて、日本の南に停滞する梅雨前線と台風第 2 号の影響により北海道地方を除く各地方で大雨となり、福井県など記録的な大雨となったところもありました。

月を通しては、低気圧や前線および台風の影響により、全国的に降水量が多く、日照時間が少なくなりました。特に、前線や台風の影響を多く受けた東日本の太平洋側と西日本、沖縄・奄美では、1946 年以降 5 月としては月降水量の多い方から第 2 位となりました。また、沖縄・奄美では 5 月の月間日照時間としては最も少ない記録を更新しました。

【5月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は 88%と例年値^(注)より 3 ポイント高く、明後日予報は 85%と例年値より 4 ポイント高くなりました。

各地方の適中率では、明日予報は東日本から西日本の近畿地方、中国地方、四国地方にかけて例年値より 5～8 ポイント高くなりました。明後日予報は例年値より高い地方が多く近畿地方で 11 ポイント高くなりましたが、九州南部地方では 16 ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は例年値より小さい地方が多く、全国平均は 1.7℃でした。最低気温の予報誤差は例年値程度の地方が多く、全国平均は 1.4℃でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7月の天気予報の利用にあたって】

7月には梅雨の後半にあたり、梅雨前線の活動が活発となって大雨による災害が発生しやすい時期となります。梅雨前線に台風の影響が重なると大雨の可能性がさらに高まります。また、本州付近に梅雨前線が停滞し、長時間にわたって雨が降り続くことにより、大きな災害が発生する場合があります。

梅雨時期に大雨の予報が出ている場合には、警報や注意報、天気予報などの気象情報に留意ください。